くまもとＳＤＧｓ
牽引部門

株式会社イノＰ

地域と畑は自分たちで守る！～住み続けられるまちづくりを目指す若手農家の挑戦～

【取組み内容】

【団体の目的】くまもと☆農家ハンターとその運営を行う株式会社イノPは、イノシシによる被害から「地域と畑は自分たちで守る」ことを理念として活動している。ICTを利用した効率的なイノシシ対策モデルや、駆除活動が農家の所得向上につながる仕組みを作り、全国に波及させることで、被害に苦しむ希望の星☆となり、イノシシ被害による離農ゼロを目指す。イノシシ対策を通じて地域との交流が生まれ、農家ハンターはイノシシ対策の担い手としてだけでなく、地域の担い手としての期待も集めている。

【社会課題】全国的にイノシシ等の野生鳥獣が増えている。それにより農作物被害や住民の生活への干渉などが増え住みにくくなることで、食の多様性（旬の果物や山菜など）を支える中山間地域の存続が困難となっている。農作物の年間被害額は161億円にも上り離農の一因にもなっており、そのイノPがロールモデルを作り全国に広げることを大きな役割と考えている。

評価項目ごとの取組みの特徴・ポイント	
普遍性	農林水産省の鳥獣対策サミットで基調講演を依頼され、年間80回に及ぶ視察対応や研修会を行って住民主体の鳥獣対策の方法を教え広げている。
包摂性	住民の困りごとでもある鳥獣被害から地域と畑を守るプロセスが（特に過疎地域の）担い手育成につながっている。離農者の抑制にも効果的。
協働性	オープンイノベーションを目指して産学官民（農家ハンター、農業高校、県立大学、農水省、熊本県、宇城市、イノP）が密に連携している。
統合性	継続的な活動を行っていくために、有志活動から発展してできた（株）イノPで地域課題解決型（ローカルアクション）事業を行っている。
透明性	アクセラレーションプログラムで日本で最も歴史があるSVP東京というプロボノ団体と協働しており、メルマガやSNSで随時発信を続けている。

貢献するＳＤＧｓのゴール